



ホームページアドレス <http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093 (201) 0680 FAX (201) 7354
第 313 号

信仰の伝達について考える マヘル神父

先月号に引き続き、信仰について皆さんで考えていきましょう。

福音をのべ伝え、広めるには、教会が、キリスト教共同体が信仰生活の基礎的要素を深く示せるように、できるかぎりのことをすることが必要です。信仰生活の基礎的要素とは、愛のわざ、あかし、宣教、祭儀、傾聴すること、そして分かち合いです。福音宣教を次のような過程と考えなければなりません。教会は聖霊に促されて、全世界に福音をのべ伝え、広めます。教導職の教えは次のように要約されます。「福音宣教は福音を公にのべ伝える。初めは人を回心へと招く告知によって。次いで、信仰教育とキリスト教入信の秘跡を通じて、キリストへと回心した者だけでなく、キリストに従う道に立ち帰った者を、信仰とキリスト教的な生活へと導き入れ、彼らをともにキリスト教共同体に組み入れる。同様に、福音宣教は、継続的信仰教育（説教やその他のカテケシス）、秘跡、愛のわざを通じて、信者の交わりのたまものを深める。そして、彼らをつねに教会の宣教のわざへと導く。教会はすべてのキリストの弟子を、ことばと行ないを通じて全世界に福音を告げ知らせよう遣わすからである。」

信仰の伝達はキリストとの個人的出会いです。この出会いは、聖霊の導きのもと

で、聖書と教会の生きた聖伝という手段によって行われます。こうして教会は聖霊によって絶えず生み出され続けます。同様に新しい世代の人は、それぞれがキリストと個人的に出会うたびごとにキリストのからだによって糧を与えられます。

私達は6月2日、大人の日曜学校で信仰のあかしをしました。また、6月23日、森司祭、古郡司祭の信仰のあかしを聞きました。

もう一度、信仰のあかしを意識してください。私達には4つの福音書がありますが、私達自身の信仰のあかしの軌跡を、第5番目の福音書として綴っていきましょう。

神様に頂いた私達の信仰を大事にしていきましょう。

信仰は賜物です。

大事にして信仰生活を送りましょう。

新司祭を迎えて・・・・・・・・・・	2・3面
聖書への案内・・・・・・・・・・	3面
信徒総会議事録・・・・・・・・・・	4・5面
大人の日曜学校報告・・・・・・・・	6・7面
今月の聖人・・・・・・・・・・	7面
おしらせ・・・・・・・・・・	8面
教会学校のページ・・・・・・・・	8面

新 司 祭 を 迎 え て

6月23日(日)森 和幸神父、古郡 忠夫神父を水巻教会に迎え、初ミサをあげていただきました。両司祭は神学生の時、水巻教会へ司牧実習に来られていましたので、私達はミサ後に祝いの会を催して、新司祭の誕生を祝いました。

東京教区ニュースに掲載された、2人の新司祭からのメッセージを紹介します。

もり かすゆき
使徒ヨハネ 森 一幸神父

今から12年前になるでしょうか、はじめて教会に足を踏み入れたのがその時です。司祭になろうとは思っていませんでした。洗礼も望んではいませんでした。その時のことを思い起せば、まさか自分が司祭として生きていくことになるとは、とても不思議なことです。

教会には結局6年間通いました。日曜学校を中心にして教会のみなさんと関わることができました。過ごした時間、それは楽しく、うれしく、喜びがありました。また、いくつかの辛い思い、心の痛みもあります。それらすべての体験をとおして自分にはなかったものに触れることができました。それは、人の愛をとおして神さまの愛というものにです。少しずつですが、神さまの愛が身に染みていったのだと思います。今、そう思うのです。

そしてある時、司祭として生きていきたいと望むようになりました。なぜそう思ったのか。なぜ望むようになったのか。

3月3日の司祭叙階式のあと、改めて思ったことがあります。それは、わたし自身が司祭として生きていきたいという望み以上に、わたしを召し出した神さまの力、そして、こんなわたしを支えてくださった教会のみなさんの力なんだということです。神さまに出会わせていただき、そしてその人を支える教会のみなさんがいる、そのような環境に過ごすことで、司祭として年きていこうと望む人が生まれ、決意を持てるのだと思います。こうしてわたしが司祭となれたのは、そんな環境の中で、たまたま森一幸という人間が教会の中で過ごし、育まれ、心の内から変えられていった、こういうことだと思うのです。自分に何かの力があるのではなく、神さま、そして教会のみなさんの力、支えが中心です。そんな中で育ててくださった教会、そしてカトリック教会にただただ感謝です。ありがとうございます。そして、これからどうぞよろしく願いいたします。



ふるごおり た だ お

アシジのフランシスコ 古郡 忠夫神父

3月3日にたくさんの方々の祈りに支えられて、東京教区司祭として叙階の恵みをいただきました。たくさんの皆さんに集まっていたいただき、本当に自分が支えられて、叙階の恵みをいただくことができたということを実感しています。もちろん叙階式に参加することはできなかった多くの方がいらしたことも知っているつもりです。北は北海道、西は九州からの祈りも、病院や施設からの祈りもたくさんたくさんいただきました。受けた恵みを、神様に、皆さんにお返しできるように、奉仕者として生涯を歩んでまいります。

叙階式の挨拶では、夢を語らせていただきました。それは、たくさんの司祭が生まれるように働いていきたいという夢、多くの若者が司祭への憧れを抱き、召命を感じることができるよう、司祭団として司教様を中心とした交わりを大切にしながら働いていきたいという夢です。

思えば、わたしのこれまでの歩みを振り返ってみますと、自分の生涯をかけて、愛である神様、イエス・キリストを証ししている司祭の姿をいつも目の当たりにしてきました。司祭になりたいと一番はじめに思ったのは、幼児洗礼を受けた築地教会で、温かい司祭のまなざしと出会ったときでしたし、大学生のときに、もう一度司祭になりたいという望みが生まれたのも、当時所属していた北海道の教会の司祭が、本当に自分のいのちをかけて神様の声を聴き、そのことを通して、神様の愛を生きている姿を見たからです。神学校に入ってから、出会った全ての司祭は、それぞれに何らかキリストをかたどり、キリストのよい香りを放っていました。教会で信者たちと交わる司祭、一人で料理をしながら説教に頭を悩ませる司祭、神学院で神学生の養成にいのちをかける司祭。それらの出会いによって、今のわたしがあるのです。

一人でも多くの方が神様の愛に生き、神様の愛に応えていくことができますように、神様の声を聴くことを通して、神様の働きをしたい。

小さく、弱いわたしのために、これからもお祈りをお願いいたします。



聖書への案内 No.36 ペテロの第二の手紙

この手紙は第一の手紙と著者が違うだろうと言われています。理由は、内容の時代が違うことです。この時代にはキリストの再来がすぐにあると信じられていたようですが、いつまでもなかったことと、70年にエルサレムが滅亡したことが影響しているのです。

この手紙は広範囲にいる初代キリスト者にあてて書かれていて、主の再来が遅れているのは神が「だれ一人滅びることなく、すべての人が悔い改めることを望まれる」(3章9節)ためであると教えています。

2013年度 信徒総会議事録

＊神父挨拶：水巻教会での初めての総会です。聖霊降臨の次の週にあたり聖霊降臨の光の中で神様のみ旨に沿った話し合いが行われるように考えましょう

＊2012年度行事報告 2012年度決算報告 会計監査報告

＊特記事項：司祭館工事にに関して、幼稚園に面したベランダの柵が、ぐらついていたので工事を行ったが園児に万が一の事故が起きたときは遅いので、急を要する工事と判断して行った。

信徒：年間行事に関して、行事の参加人数を資料に載せてほしい。

役員：来年から考えたい。

信徒：共助組合の費用について詳細をきちんと伝えていたはずだが使い方について伺いたい。

役員：内容については、引き継いでいます。そのように使っていると認識しています。

信徒：初聖体で子どもの親からお金を集めたがそれは、やめてもらいたい。共助組合の費用を使えばいいと思う。

役員：検討します

信徒：信徒協代表者会議の参加について、前回委員会で、信徒協から委員長宛に資料が送られてきていないとの答えがあったが、信徒協側に確認をしたら、2ヶ月前に送付しているとの答えがあった。役員たちは、ミサの時一番前に行ってミサに与るべきだ。

役員：前委員会で答えた通り、委員長宛に送られて来てない時期があったことは事実です。信徒協側に、再度こちらから確認します。

信徒：役員さんたちは大変よく頑張ってくれている。役員さんたちが、後ろにしてくれたお陰で、気分が悪くなった人達が、助けられたことがあるので、別に役員さんたちが前にいく必要は無いと思います。

信徒：総会日程について、以前は4月に総会が行われていた。5月は運動会などの行事があるので再考願いたい。

地区集会での意見の取り扱いについて考えて欲しい。役員改選についてもっと民主的に行うべきではないか。委員会の役割を考えてほしい。建物外壁工事にに関して20年経っているので外壁工事や屋根の改修工事が必要ではないか。

役員：中身について精査している。また委員会で逐一報告している。なるべくわかりやすくする為に努力している。内容については、逐一委員会で報告している

信徒：小グループの活動のために予算をとって欲しい。

駐車場の車止めについて、事故が起こる前に早急に検討して欲しい

役員：以前から話があり、検討したが良い解決策が見つからない。知恵を出して欲しい

信徒：新しい門扉について詳細を教えて欲しい。

役員：先週、教区から工事内容について認可を頂いた。640 万くらいで行う予定。場所、図面等の内容は、委員会で逐一報告している。後日教会の後ろに図面を貼りだします

信徒：こんな大事なことは信徒に報告して、信徒の合意を受けて行うべきではないか。

役員：全体で話し合っても、なかなか話がまとまらないので、委員会で話し合っで決めることにしたという経緯がある。

***2013 年度行事計画 2013 年度 予算案**

信徒：納骨堂のコンセントについて検討してほしい

役員：検討します

信徒：巡礼者のためにスタンプを作成してほしい

役員：以前にも意見があったので検討したい

信徒：12 月の歳末助け合い募金について今年はどうにするのか

役員：信徒協主催なので、小教区で行うかどうかは、委員会で検討したい

信徒：予算を組む時は、現状を考慮して行うべきだ。

信徒：宣教グループの活動は、宣教活動とも深くつながっていると思うので是非そのような活動に予算をあててほしい。今年の 12 月の街頭募金は、宣教活動にもつながるので、是非やってほしい。エレベーターの設置について検討して欲しい。

役員：費用等についても検討したい。

***委員会・地区委員 紹介**

信徒：地区委員の交代について、不明な点がある

役員：今回その件に関しては、教会の中であまり好ましくないことがあった。その地区でも、同様のことがあったのでこちら側から、直接話をして地区委員さんに引き続き地区委員を引き受けてもらうようお願いした。

信徒：総会のやり取りを聞いて、改めて事務局の方に感謝したい。諸先輩方は色々のご苦労されたと思いますが、信仰を守っていくうえで皆が助け合うことが大事ではないかと思う。また言葉の使い方に配慮した方が良いと思う。

役員：貴重な意見有難うございます。確かに宣教活動も必要なことではあるが、今の教会の現状を見て欲しい。若い人たちがいないし子どもたちの数が少なくなっている。次の世代が育っていないということだと思う。次の世代にどのように信仰を伝えていくかということを真剣に考えていかないといけない時期にさしかかっていると思う。

*委員長挨拶：皆さん本日の総会御苦勞様でした。マヘル神父様が来られて 2 カ月しか経ってないので慣れないところもあるが委員会のメンバーに助けてもらった。これからも宜しくお願いします。皆さまの御協力で、心許しあう教会、そして祈りとともに助け合う教会にしていきたいと思います。これからもどうぞ宜しくお願いします。

6月2日 大人の日曜学校の報告(1)

マヘル神父の指導のもと、教会の3名の信者の証し(信仰への道)を話して頂きました。今回は、そのうちの一人、赤石さんのお話を掲載させていただきます。

どうして信者になったのか 赤石良夫

私の生れ育った大分県杵築市は、仏の里、国東半島のほぼ中央に位置しており、半島には有名な富貴寺、真木の大堂、両子寺(ふたごじ)や熊野磨崖仏(クマノマガイブツ)などの仏教由来の寺や仏像があります。

我家も代々、仏教徒で、子供の頃には寺にも遊びに行っていました。そんな家でしたが、父は割合、宗教に対しては寛大な考えを持っていた人で、社会人になった私に、「何も仏教だけが宗教ではない。どの宗教も悪い教えはないし、人生を生きていく上で、色々と役に立つ教えを広めていくものだから」、と常々常々言っていたものです。

そんな私が就職して、最初に赴任したのが、山口県徳山市で、当時、見知らぬ土地に来て、友人もいないし、寂しさから、ボランティアグループの徳山子供劇場に参加することになり、その事務局が徳山カトリック教会の敷地内にあった関係で、毎週、教会の中に入出入りしておりました。

メンバーの中に何人かの信者さんがいまして、ある日「毎週日曜日にミサがあっているけど、行ってみないか」と誘われ、ついその気になって、生まれて初めて聖堂に足を踏み入れたのが、カトリック教会との出会いでありました。

教会へ行く動機は決して真面目なものではなかったと思っています。毎週、教会にはきれいな女の子がたくさん来ていて、知り合いになれば良いなあと、まあこんな感じで、どちらかといえば、動機は不純だったと思っています。

そんな私を当時の主任司祭のホルバート神父は、熱心に信仰は何かとか、聖書の勉強をすることを勧めてくれました。約1年間かけて、聖書の勉強をしたところに、若松の支店へ転勤になったわけです。

その支店の真裏に若松カトリック教会があって、徳山教会のホルバート神父からの紹介状を持って、主任司祭のデ・シャンブ神父を訪ねて行きました。そこで、神父様よりこの教会で青年会を作ってみませんか、とおっしゃられたので、若者の意志の疎通をはかるためにと、約10人位の若松カトリック青年会を作りました。活動内容は、聖書研究や施設訪問やレクリエーション等でした。施設訪問では、老人ホームや聖小崎園に行きました。レクリエーションでは、登山等をして良く遊びました。そのレクリエーションの登山でのエピソードがあります。

ある晴れた日の、冬の九重山へ上った時のことです。牧ノ戸峠の登山口より沓掛山から、

順調に、九重分れ、と進んで、登頂まであと200から300mのところ、先に登頂していたグループが急いで、下山していくのを横目で見ながら、最後のアタックをしていた頃に天候が急変し、あたり一面ガスに覆われたのです。5m先が見えないし、雪で靴の中まで浸みってくるし、広い中の原を進んでは引き返す状況でした。私は九重山には、小倉労山に加入していて、何度も登って地理は理解しており、みんなには、自分の庭みたいなところで大丈夫と言ってはいたのですが、さすがにこの時には困ってしまい、10人も連れて来ていたので、心配になってきていました。そんな中で、我々のグループの中に、一人の理科の先生がいらして、「赤石さん、こんな前が良く見えないような時には、動かないで体力を温存するため、じっとしていた方が良いですよ。」と冷静に沈着なアドバイスをもらって少しほっとしていました。そうこうするうちにガスが晴れて、道が確認できるようになると、一目散に、法華院温泉の方へ下山して、事なきを得たことがありました。この同じ場所で、久留米の登山者が、大量遭難し、大勢の人が死亡したところだったのです。今でもここには、10mおきにケルンが立ててあって、登山者の安全を見守っています。そんな訳でリーダーの自分の山に対する判断の甘さ、気象に対する無知を思い知らされたのは言うまでもありません。この青年会のメンバーのうちより、あとでお互い仲良しになったカップルが何組か誕生し、結婚したケースが何組かあります。その一組にわれわれ赤石家の今があります。

目には見えない縁と言うか、絆が生まれたのも、神様からの恵みではと感謝しております。我が家では子供たちは三人とも幼児洗礼でしたが、長男が未婚者の人と結婚して、後に洗礼を受けて、信者になってくれたのは非常にうれしいことでした。今では、私より熱心に教会行事にも参加しており、感心するばかりです。こんな訳で、自分も信者のはしくれではありますが、まだまだ、信仰心薄く、祈りも足りない私ですが、これから先、少しずつ勉強していこうと考えています。

📖 📖 📖 📖 📖 📖 📖 📖
今月の聖人 14日 聖カミロ（レリス）司祭 1550年-1614年

カミロは、イタリアのナポリの貴族の家に生まれた。18歳のとき軍隊生活に入り、そこで、足に傷を受け、さらに賭博によって全財産を失った。足の傷は生涯彼を悩ますこととなる。25歳になって回心し、カプチン会の修道院に入ったが、傷がひどくなったので会をやめた。その後、ローマの病院に行き、病人を看護する決心をした。彼の回心に影響を与えたフィリポ・ネリのすすめを受け、神学を学び、司祭となって、2人の同志とともに「病人のしもべたち」という修道会を創立した。「病人のよいしもべは、病院で死ぬ」と彼がいていたように、生涯を病人のためにささげた。彼の創立した会は、「聖カミロ修道会」として全世界に広まった。彼は病院・病人の保護者と呼ばれている。





★信徒総会資料の変更★

今年度信徒総会の資料の内容が一部変更になったものをお知らせします。

○水巻教会巡礼旅行

10月14日(月)から9月23日(月)に

○典礼委員会

水曜日 19時30分から日曜日第2週に

○クリストフォール

木曜日 第2週・3週・4週の午後に行う。
金曜日はなし。

○シーバの会

マヘル神父様が行う、火曜日の聖書の集まりに合流

○求道者の勉強会

マヘル神父様の聖書の集いに参加してもらう。(火・金)

○ラシーヌの会

金曜日第3週から第4週に 場所も変更

★特別寄付★

中間地区の中田様より、教会に寄付がありました。ありがとうございました

★教会学校錬成会★

日 時：7月20日(土)

今年も教会学校の1日錬成会を行います。時間や場所、内容など詳しい事はミサ中のお知らせや掲示板をご覧ください。



【帰天】安らかに

◇5月28日

中田 政雄さん(中間地区)



5月26日

- 思は一つを朗読しました(子じかより)
- 豊田神学生に、三位一体と十字架の説明をして頂きました。

6月9日

- ルカ福音書にある、神さまのあわれみについて学びました。
旧約・新約聖書の数カ所を引用して神さまのあわれみについて、
豊田神学生が深く話をしてくださいました。

